

第90期 中間報告書

2019年4月1日~2019年9月30日

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維（ナスロン）を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードし続けています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第90期中間期（第2四半期累計期間、2019年4月1日から2019年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

2019年12月



代表取締役社長

新貝 元

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、10月の消費増税を控え、内需を中心とした個人消費は底堅く推移しましたが、第3四半期以降、増税による鈍化が懸念される状況となっています。企業活動としましては、堅調だった非製造業が陰りを見せ始めており、製造業は依然として在庫の高止まりや輸出の不振などにより、力強さを欠く展開が続いています。また世界経済については、米中貿易摩擦をめぐる中国経済の減速と米国・欧州経済の停滞、更には中東情勢の緊迫化など、景気の先行き不透明感が強い状況となっています。

当社及び連結子会社(以下「当社グループ」という。)が属するステンレス鋼線業界は、前期後半から続く需要の減退で、業界出荷数量は前年同期比減少となりました。LMEニッケル価格については、インドネシアでニッケル鉱石の禁輸を前倒しするといった見方が広がり、9月にはポンド当たり8ドル超まで急騰するという局面が見られました。

このような状況の中、当社グループでは連結経常利益55億円、連結ROS及び同ROA10%以上などを経営目標とする『第14次中期計画(NSR20)』(最終年度2021年3月期)の達成に向け、収益の向上に取り組んでまいりました。

当期間中の売上高につきましては、主力のステンレス鋼線部門は、顧客の需要減や在庫調整

などにより販売数量は前年同期に比べ減少し、売上高は減収となりました。また金属繊維部門は、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)が半導体製造装置・機器メーカーの設備投資の延期及び在庫調整などにより大幅な減収となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は172億3百万円(前年同期比13.7%減)となりました。

損益につきましては、ステンレス鋼線全般、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)の販売が振るわず、営業利益は7億60百万円(前年同期比65.2%減)、経常利益は7億94百万円(同64.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億58百万円(同64.0%減)となりました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき35円とさせていただきます。

事業部門別の経営成績は次のとおりです。

ステンレス鋼線部門

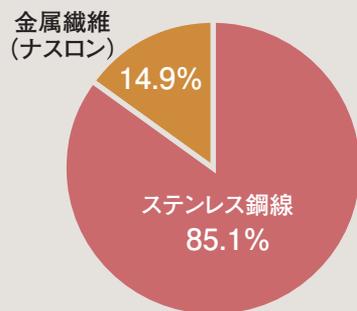
スマホなどIT関連をはじめとする高機能・独自製品が需要減と在庫調整などにより低迷し、また、ステンレス鋼線市場全体の需要動向も減少傾向が続いており、減産を余儀なくされました。販売数量は前年同期に比べ減少し、売上高は146億34百万円(前年同期比9.8%減)となりました。

金属繊維(ナスロン)部門

ナスロンフィルターはポリエステルフィルム用途がわずかに増収となったものの、化合繊維や高性能樹脂用途などが低調であり減収となりました。また超精密ガスフィルター(ナスクリーン)は、半導体製造装置・機器メーカーの設備投資の中止・延期に加え、第2四半期には終了すると予測した在庫調整が進まず、大幅な減収となりました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は25億68百万円(前年同期比31.0%減)となりました。

■ 部門別売上構成比(連結) 90期中間



セグメントごとの経営成績は次のとおりです。なお、セグメントごとの経営成績については、セグメント間の内部売上高又は振替高の相殺消去前の金額を記載しています。

日本

主力のステンレス鋼線は全般的に販売数量が

減少し、売上高は前年同期比減収となりました。金属繊維につきましても、ナスロンフィルターは販売数量の減少、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)も大幅に減少し減収となりました。

これらの結果、売上高は156億37百万円(前年同期比16.2%減)となりました。損益につきましてはステンレス鋼線全般、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)の販売が振るわず、セグメント利益は6億22百万円(同70.3%減)となりました。

タイ

ステンレス鋼線の販売数量は減少し、売上高は21億73百万円(同1.1%減)となりましたが、販売内容の改善により、セグメント利益は1億3百万円(同12.2%増)となりました。

中国・韓国

中国国内向けの販売が好調に推移したことに加え、非連結子会社を連結の範囲に加えたことなどにより、売上高は5億75百万円(同112.9%増)、セグメント利益は73百万円(同244.1%増)となりました。

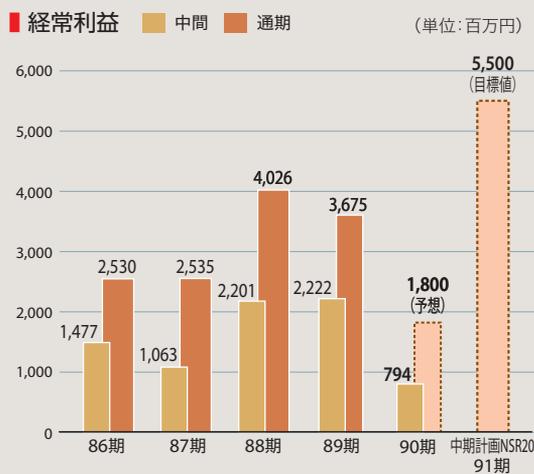
※前連結会計年度において非連結子会社であった大同不銹鋼(大連)有限公司、韓国ナスロン株式会社及び日精テクノ株式会社は連結決算の開示内容の充実及びグループ経営の強化を図るため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。報告セグメントについては、日精テクノ株式会社は「日本」、大同不銹鋼(大連)有限公司及び韓国ナスロン株式会社は「中国・韓国」に含めております。

今後の見通しといたしましては、米中貿易摩擦や英国のEU離脱などの政治不安の高まりを受け、中国をはじめ、欧州、日本など世界的な景気後退懸念が強まっております。また、スマホや半導体製造装置用などIT関連部品の在庫調整は解消に向かうものの、需要回復にはもう少し時間を要するものと考えられます。加えて、当社グループの主力製品であるステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念やニッケル価格に起因する原材料価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれております。また、金属繊維（ナスロン）も化合物繊維向けなどの一般汎用製品については競争が激しくなってきております。

こうした中で当社グループはかかる経営環境に対応するべく、より筋肉質な企業基盤を目指し、既述の『第14次中期計画(NSR20)』の課題に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ボルト用材や高合金線などの独自製品に加え、新用途製品の立ち上げを推進してまいります。一方、生産面では需要家のグローバル展開に対応した海外2工場の競争力強化や、東大阪・枚方工場リニューアルの推進等により、引き続き国内外の最適生産体制の構築を進めてまいり

業績の推移(連結)



ます。開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することによる新製品開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでまいります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用等による海外市場への拡販、また、国内でもより高機能化・高精度化する需要に応えるべく技術開発を継続してまいります。

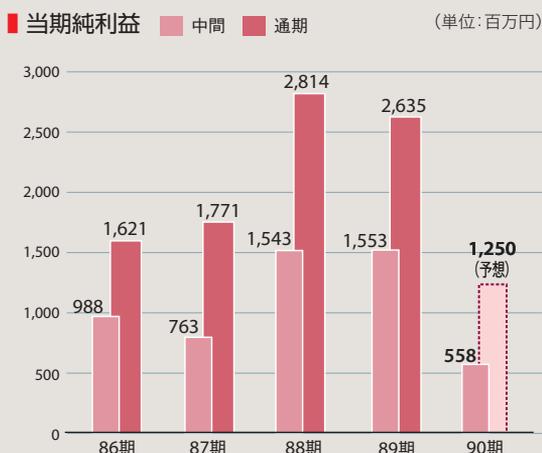
さらには、環境・医療・エネルギー関連など幅広い分野での新製品開発などにも鋭意取り組んでまいります。

以上の諸施策を確実に実行することにより、

収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』を目指してまいります。

なお、2020年3月期の連結通期業績につきましては、2019年9月27日公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」の予想どおりに推移しており、業績予想に変更はございません。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



※2017年10月1日を効力発生日とする株式併合を実施しましたが、86期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

連結決算

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表

科目	期別		
	当第2四半期末 (2019年9月30日現在)	前第2四半期末 (2018年9月30日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	26,033	26,902	26,247
現金及び預金	11,508	11,686	11,338
受取手形及び売掛金	7,486	8,724	7,968
商品及び製品	2,268	2,065	2,274
仕掛品	3,079	2,945	3,099
原材料及び貯蔵品	1,519	1,322	1,441
その他	170	157	125
固定資産	16,009	15,562	15,979
有形固定資産	13,575	12,704	13,178
建物及び構築物(純額)	4,592	4,622	4,595
機械装置及び運搬具(純額)	5,954	5,640	6,004
土地	1,628	1,589	1,595
リース資産(純額)	10	8	12
建設仮勘定	808	306	404
その他(純額)	579	537	566
無形固定資産	333	352	362
投資その他の資産	2,100	2,504	2,438
資産合計	42,042	42,464	42,227

(単位:百万円)

科目	期別		
	当第2四半期末 (2019年9月30日現在)	前第2四半期末 (2018年9月30日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	6,679	8,220	7,370
支払手形及び買掛金	4,486	5,079	4,651
短期借入金	409	547	563
未払法人税等	294	797	492
賞与引当金	683	695	663
役員賞与引当金	-	-	29
その他	804	1,100	970
固定負債	4,489	4,513	4,388
長期借入金	-	150	-
役員退職慰勞引当金	40	36	44
退職給付に係る負債	4,427	4,306	4,321
その他	21	19	22
負債合計	11,168	12,733	11,759
純資産の部			
株主資本	30,549	29,606	30,259
資本金	5,000	5,000	5,000
資本剰余金	5,442	5,442	5,442
利益剰余金	20,954	20,011	20,663
自己株式	△ 847	△ 847	△ 847
その他の包括利益累計額	△ 51	△ 109	△ 49
その他有価証券評価差額金	21	70	27
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 0	△ 0
為替換算調整勘定	123	56	169
退職給付に係る調整累計額	△ 196	△ 235	△ 245
非支配株主持分	376	234	257
純資産合計	30,873	29,731	30,467
負債純資産合計	42,042	42,464	42,227

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計) (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
売上高		17,203	19,941	38,760
売上原価		14,797	16,103	31,848
売上総利益		2,405	3,837	6,912
販売費及び一般管理費		1,644	1,653	3,357
営業利益		760	2,184	3,554
営業外収益		65	74	198
営業外費用		31	36	77
経常利益		794	2,222	3,675
特別利益		0	28	28
特別損失		—	27	38
税金等調整前四半期(当期)純利益		794	2,223	3,665
法人税、住民税及び事業税		235	726	1,080
法人税等調整額		△19	△65	△78
四半期(当期)純利益		578	1,562	2,663
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益		19	8	27
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益		558	1,553	2,635

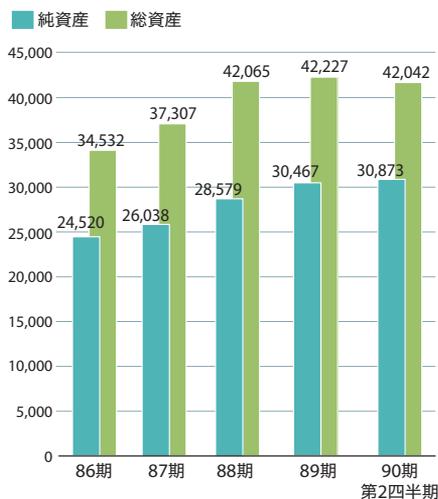
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計) (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,488	1,002	2,379
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,107	△1,972	△3,121
財務活動によるキャッシュ・フロー		△519	△546	△1,118
現金及び現金同等物に係る換算差額		△12	21	82
現金及び現金同等物の増減額		△150	△1,494	△1,779
現金及び現金同等物の期首残高		11,233	13,013	13,013
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		289	—	—
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		11,372	11,518	11,233

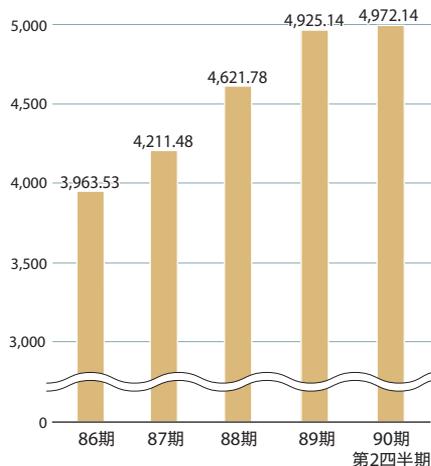
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



※2017年10月1日を効力発生日とする株式併合を実施しましたが、86期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

会社の概況 (2019年9月30日現在)

会社概要

商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
 設立 1951年6月30日
 資本金 50億円
 従業員数 606名
 ホームページ <http://www.n-seisen.co.jp/>
 アドレス

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、
 チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、
 金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、
 ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

当社グループの主要な事業所

■当社

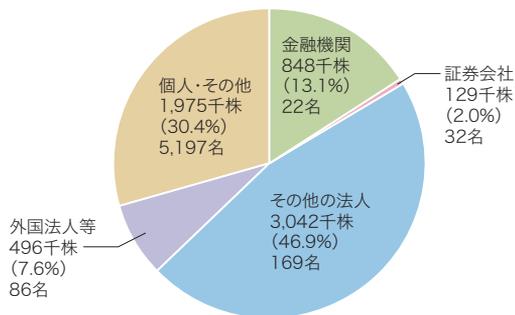
本社	大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店	大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区) 名古屋(名古屋市中区)
工場	枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)

■連結対象子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO.,LTD.	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司	80%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連
韓国ナスロン株式会社	100%	韓国ソウル
日精テクノ株式会社	100%	大阪府枚方市

株式の状況

- 発行可能株式総数 25,000,000株
- 発行済株式の総数 6,492,293株
- 当第2四半期末株主数 5,506名
- 所有者別株式分布状況



■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	2,620 ^{千株}	42.72%
株式会社みずほ銀行	217	3.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	125	2.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	123	2.01
特殊発條興業株式会社	106	1.73
前尾和男	99	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	84	1.37
BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV - DSB JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE	69	1.13
株式会社三菱UFJ銀行	67	1.10
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	67	1.09

(注) 1. 持株比率は自己株式(358千株)を控除して計算しております。
 2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

役員 (2019年9月30日現在)

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	新 貝	元
*取締役	秋 田	康 明
*取締役	高 橋	一 朗
取締役	花 井	健 明
取締役	滝 沢	正 明
取締役	立 花	一 人
取締役	渡 邊	剛 一
常勤監査役	中 川	幸 朋
常勤監査役	若 松	壮 一
監査役	花 輪	博 一
監査役	笹 山	真 一

執行役員

常務執行役員	富 永	誠 司
常務執行役員	秋 田	康 明
常務執行役員	吉 田	厚 資
常務執行役員	加 藤	泰 資
執行役員	津 田	俊 之
執行役員	高 橋	一 朗
執行役員	岩 城	泰 王
執行役員	小 林	真 裕
執行役員	越 智	隆 彦
執行役員	大 塚	雅 彦
執行役員	谷 口	政 広
執行役員	山 田	和 仁

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) ●インターネット
	https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html

第1回 株主様工場見学会を実施しました

当社をより深くご理解いただくために、当社で初めてとなる「株主様工場見学会」を2019年10月14日に実施いたしました。100株以上ご所有の株主様から多数のご応募をいただき、抽選を経て約30名の株主様に、「ステンレス鋼線」や「超精密ガスフィルター」など当社主力製品の生産ラインの一部や展示室等を見学していただきました。見学終了後のアンケートでは、ほとんどの方から「満足」の回答を頂き、「丁寧、わかりやすい、手作り感がある」といった数々のありがたいコメントも頂戴しました。また、見学後の質疑応答では数多くの質問を頂くなど株主の皆様とコミュニケーションを深めることができました。今後も「株主様工場見学会」を継続開催する予定ですので、奮ってご応募ください。



NIPPON SEISEN CO., LTD.

